

---

2019年3月2日(土) ヤリイカ 豊漁丸  
若潮:旧10/16 干潮16:38(21cm) 満潮22:41(28cm) 干潮 翌日06:51(4cm)  
ヤリイカ 14杯  
(大型 胴長25センチ オス:6杯 小型 胴長21cm メス:8杯)

---

20時30分 現地着 酔い止めを飲む  
(抽選の1時間前に酔い止めを飲むこと)  
今日は30分前だった。

21時00分 釣り座抽選

21時50分 出船

22時40分 釣り場に到着

22時41分 満潮

3時50分 納竿

6時00分 現地発 自宅に向かう

### 【ヤリイカ仕掛け】

基本 ハリス・幹糸 新品 プラズノ・浮きスツテ:リユース

○上から、ダイヤエース(青色)、プラズノ魚型(水色)、プラズノ(透明ピンク)、浮きスツテ2.5号赤白、プラズノ(透明)

○どこかのHPに、「上に濃い色、下に薄い色」、「ケイムラ(透明)、ピンク、青、水色が良い」とあったことから上記のようにした。

○後半、置き竿に掛かったことから、プラズノ魚形(水色)に変えて発砲浮きスツテ赤緑を使用した。

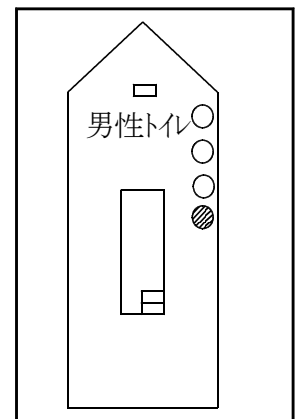
○すべてのツノ・スツテに掛かった。全部で14杯であったことから、特によく掛かったというものはない。

○幹糸5号枝間1.2m 上糸1.2m 下糸:5号30cm+サルカン+4号90cm 全長7.2m  
ハリス3号3cm~5cm (ハリスの太さは釣果に影響しないとのこと)

○おもり 80号 水中ライトなし

○電動リール ビーストマスター3000XP

○竿 シマノ YOIKA BB 7:3 2.25m 錘負荷50-120号



### 【料金】

○船代 ¥12,000×2名 (氷付き)

### 【様子】

○天気図を見て3日前に予約した。薄曇りだった。風もなし。月もなし。当日は満席だった。

○釣り座は胴付き仕掛けの人とメタルスツテの人に分けての抽選である。くじの番号順に右舷前から席をとるというシステムだった。右舷の前から4番目の所に入った。右舷のミヨシ(男性用トイレより前)には、メタルスツテの人が二人入った。

○抽選前に船長がお客さんと釣り談義をしていた。「ヤリイカはスルメイカのように長い距離を追いかけてくるということをしない。せいぜい1mくらいまで。基本は底で釣る。底から6mまでである。いつまでも底に仕掛けを置いておくと見切られるので、当たりがなければ、仕掛けをイカの見えないところまで巻き上げて、もう一度落とすと良い。」

- 「おもり80号。底で狙って。上げても底から6mまで」とアナウンス。「深夜釣りでも底」ということだ。
  - 竿を大きく振り上げている人がいたことから、「竿を大きく振り上げて誘うとイカが逃げちゃう」とアナウンスがあった。
  - 電動リールでは、底まで75mだった。仕掛けが7mあるから、海底まで82mである。
  - 釣り初めて、ぽつりぽつりと釣れてくる。ダブルも2回ほどあった。
  - 当たりが遠のいてきた。置き竿にしておいたら1杯かかった。発砲浮きスツテ赤緑を上から2つ目と交換した。前半は9杯である。
  - その後、さっぱりダメ。ところが、右舷前から2人目の人がぽつりぽつりと釣っている。自分のツノ・スツテとは異なる。仕掛けの違いだろうか。様子を見てみると、どうも底で釣っているわけではないようだ。75m(底)から5m刻みで上へ上へと60mあたりまで、「誘っては止め」を繰り返した。当たらなかった。
  - 疲れてきた。置き竿にして、底を狙うがさっぱりダメ。
  - 先ほどの人は、まだ、釣れ続けている。60mで試してみた。当たりがあった。ダブルだった。しばらくして、また、当たった。
  - 仕掛けが違うから釣れないのではなく。釣れなかったのはイカがいないのだ。底と60mで試してみた。発砲浮きスツテ赤緑にも2杯かかった。後半5杯となった。
  - 回収スピードを初めのうちは、ばらさない配慮からスピード5でやっていたが、後半はスピード7で行った。
- ビーストマスター3000XP おもり80号 ヤリイカ 回収スピードは“7”で行う。

### 【釣り方 その1 底で釣る】

- 「ヤリイカは底で釣る、高くても底から6mまでで釣る」のが基本だが、今日は底から15m上でも釣れた。底で釣れなくなったら、底から15m上まで探るべきだ。
- 「底から6mまでを誘っても当たりがなければ、一度、仕掛けがイカから見えないところまで巻き上げて再度、落とす。」(巻き落とし)をする。

### 【釣り方 その2 誘い方】

- 「待っているときに当たりがある」ことを念頭に置く。誘いすぎないこと。
  - 竿先を下に向けておく。(これをホームポジションとする。)
- その1 軽くシャクリ(竿が水平ほど竿先を上げない)、ホームポジションに戻して待つ。(待つ時間はカウント8くらい)
- その2 ①ホームポジションから、ゆっくり竿先を頭の上まで持ち上げていき、一番上で止めて待つ。待つ時間はカウント8くらい。
- ②-1 当たりがあれば、その位置のまま、リールを手で巻き、当たりを確実にする。
- ②-2 当たりがなければ、持ち上げた速さと同じ速さで、竿先を降ろし、竿が水平になったら、止めて待つ。待つ時間はカウント8くらい。
- ③更に、当たりがなければ、さらに降ろし、ホームポジションになったら、止めて待つ。待つ時間はカウント8くらい。

その2は、後半にたくさん釣っていた人の釣り方である。

### 【釣り方 その3 1杯ずつ確実に】

○ホームページによると、「2杯目3杯目を狙わず、当たりがあれば、1杯ずつ確実に上げた方が良い。」とあった。今日は、狙ったわけではなく、都合良く、たまたまダブルが3回あった。

### 【釣り方3 その5】

- 巻き上げながら、しゃくる方法では釣れない。
- フォールでのキャッチはなかった。

### 【イカが掛かったときの回収】

- 回収は手持ちの方が良いかも。
- シマノ ビーストマスター3000XP おもり80号 スピード7  
(スピード8~9でも良いかも、研究の余地あり。)

### 【仕掛け】

- 発砲浮きスツテ赤緑(通称、浮きヅノか?)をつけている人は多かった。
- エギのような大きなスツテに、鳥の胸肉(?)を針金で巻いている人が3人いた。3人ともグループが異なる。
- 発砲浮きスツテ赤緑、浮きスツテ2.5号赤白を混ぜて、プラヅノ(透明、透明ピンク)の仕掛けでよい。魚形プラヅノ(水色)、ダイヤエース(青色)にも当たりがあった。ダイヤエースは1回だけだったような気がする。ダイヤエースは一番上につけてあったことも要因の一つだと思う。魚形プラヅノ(水色)は2回以上掛かった。

次回は、上から、魚形プラヅノ(水色)  
発砲浮きスツテ赤緑  
プラヅノ(透明ピンク)  
浮きスツテ2.5号赤白  
プラヅノ(透明)

または、上から、魚形プラヅノ(水色)  
発砲浮きスツテ赤白  
プラヅノ(透明ピンク)  
浮きスツテ2.5号赤緑  
プラヅノ(透明)

(発砲浮きスツテ赤緑が1つしかないの。)